

コミュニティ・スクール委員会だより

発行者：にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会 会長 佐藤 友厚

今年度最終号 アクションプラン & 地域人に学ぶ

「学校」「地域」というそれぞれの立場で、どのように子どもたちを見守り応援していくのが良いかを代表の皆さんにお聞きしました。

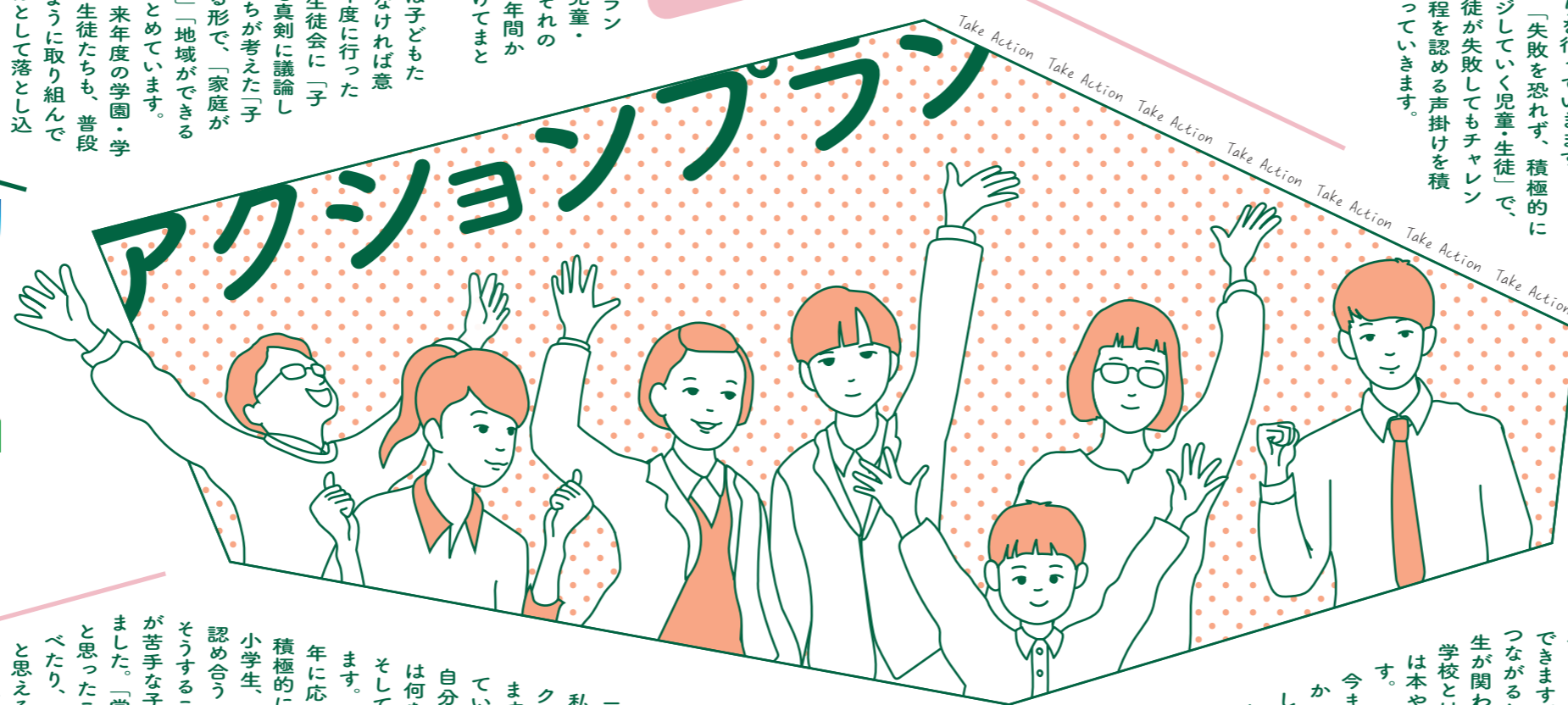
学園の児童・生徒像とは言い、一人一人が違った個性を持った児童・生徒なので、具体的なアクションプランは個人によって少しずつ異なるはず。児童・生徒一人一人のウェルビーイングを考えながら、「家庭」「学校」「地域」というそれぞれの立場で、どのように子どもたちを見守り応援していくのが良いかを代表の皆さんにお聞きしました。

にしみたか学園アクションプランは、にしみたか学園の目指す児童・生徒像の実現に向けて、それぞれの立場からどう行動するかを、2年間かけて熟議や意見交換などを続けてまとめた計画です。

2年目は、アクションプランは子どもたちが「こうなりたい」と思わなければ意味がないという観点から、昨年度に行った熟議のキーワードから二中の生徒会に「子どもが取り組む事」のプランを真剣に議論してもらいました。この子どもたちが考えた「子どもが取り組む事」に連鎖する形で、「家庭ができる事」「学校が取り組む事」「地域ができる事」を熟議の意見から抽出しまとめています。

このアクションプランを元に、来年度の学園・学校の経営計画が生まれ、児童・生徒たちも、普段の生活の中で、具体的にどのように取り組んでいくかを一人一人が自分の目標として落とし込んでいく予定です。

にしみたか学園
アクションプラン
ができました！



子どもが取り組むこと	学校が取り組むこと	地域が取り組むこと
1. 自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒	1. 自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒の育成	1. 自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒の育成
2. 積極的にチャレンジしていく児童・生徒	2. 積極的にチャレンジしていく児童・生徒の育成	2. 積極的にチャレンジしていく児童・生徒の育成
3. 失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒	3. 失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒の育成	3. 失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒の育成
4. 仲間と協力し、課題を乗り越えていく児童・生徒	4. 仲間と協力し、課題を乗り越えていく児童・生徒の育成	4. 仲間と協力し、課題を乗り越えていく児童・生徒の育成
5. 地域と連携し、課題を乗り越えていく児童・生徒	5. 地域と連携し、課題を乗り越えていく児童・生徒の育成	5. 地域と連携し、課題を乗り越えていく児童・生徒の育成

アクションプラン詳細は
にしみたか学園のホームページに
掲載しています。ぜひご覧ください。

にしみたか学園
ホームページ

日常生活に結び付けて
アクションプランに
取り組んでいく

二中学生会 米川 佳里奈

私たち生徒会役員は、日常生活と結びつけてアクションプランを実行していきたいと考えています。「自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒」について中学生は、なりた自分への目標を立て、その目標を達成するために何をすればいいかを考え、行動していきます。そして、必ず振り返りを行い、次の行動に反映させます。また小学生は、やり切りたいことを決め、学年に応じて行動に移していきます。「失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒」については、小学生、中学生共に失敗してもチャレンジしたことを認め合うことのできる環境や、雰囲気を作っていきます。そうすることで、自分から発言やチャレンジをすることが苦手な子でも、チャレンジしやすい環境になると考えました。「常に学び続ける児童・生徒」では、わからないこと、知りたいと思ったことがあれば自分で調べたり、友達に聞いたりして学ぶと言ったことを楽しんでいる環境にします。また、先生方に聞いたりすること、知識を得られる場が増えていくのではないかと考えました。最後に「共に生きる力を育んでいく児童・生徒」では、自分と同じだけ相手を大切に、他人を認め、自分の意見も認めてもらえるような関係を作っていきます。そうすることで、相手の気持ちを考えた発言をすることができるようになると考えました。このように日常生活と結びつけることによって、アクションプランをより身近に感じ、実行することができると私は思っています。

子どもたちのアクションを
どうやって応援していく？

二中PTA副会長 安藤 万希子・岩野 弥生

安藤「岩野さんアクションプランって知ってる？」
岩野「知ってるよ。知らないの？安藤さん。」
安藤「聞いたことはある。CSで打ち出してるプランのこと？」
岩野「そうそう、子どもたちが目的を持って取り組むことに対して、地域、学校、家庭がどうやってバックアップしていくか、を考えるプランのことよ。」
安藤「それに対して何か家でやることがある？」
岩野「我が家ではまずやりたいことを子どもたちに聞いて、紙に書いて壁に貼らせるの。達成したらはがすのね。目に見えてみんなにも自分にもわからせることで、家族も協力できるし、自分も書いた以上はやらなくちゃ！という気合いが入るみたい。」
安藤「それはすごいね。子どもたちはどんなことを書いたの？」
岩野「簡単なことだよ。次のテストでは80点取る！とか、毎日忘れ物をしない！とか。」
安藤「親としては、それに対して声をかけすればいいのね。自分で決めたことだから、押し付けがましくならないのいいよね。」
岩野「あんまり学校のことか話さなくなってくる年ごろだからね。親が言っても全然聞かないし。」
安藤「プランを考える時は会話もできるし、あくまでも本人が言い出したことをこちらは応援すればいいのね。」
岩野「そうそう、見守りながら押し付けることなくね。」

にしみたか学園の
4つの目標に沿って

第二中学校 井上 裕太先生

いよいよ来年度から「にしみたか学園アクションプラン」が始まります。

アクションプランの中にある「学校が取り組むこと」について、4つの目標に沿って具体的に説明します。

1つ目の「自ら考え行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒」の実現のために、児童・生徒が活動の意義を理解して目標を立てられるように声掛けを行い、進行管理表や振り返りシートを作成など児童・生徒が自ら行動しやすい環境づくりを行っていきます。

2つ目の「失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒」で、児童・生徒が失敗してもチャレンジした過程を認める声掛けを積極的に行っていきます。

3つ目の「常に学び続ける児童・生徒」で、児童・生徒の学習意欲を高めるように、体験学習やタブレット端末の活用など工夫した授業展開を行い、授業外でも学習したくなるようなきっかけづくりを意識して行っていきます。

4つ目の「共に生きる力を育んでいく児童・生徒」で、相手を思いやった発言を教員が積極的に行っていきます。特に、「おはよう」や「ありがとう」、「ごめんねさい」等の心の交流が図れる言葉を中心にコミュニケーションをとっていきます。

効果的な実施につながるように児童・生徒と交流しながら、各発達段階に応じて関わっていききたいと思えます。

子どもの本気に大人も
本気で答えていきたい！

CS委員会 評価部 中山 裕之

子どもの本気を感じた事はどれくらいありますか？子どもが一生懸命トライして、想像以上の結果を出してきたとき、無理だろうって諦めてしまおうような事にひたむきにチャレンジしている姿を見たとき、そしてやりきった時の満面の笑顔を見たとき、大人は心の底から子どもを応援したくなります。

この地域の子どもたちは大人の話を真剣に聞いてくれます。でもそんな子どもたちも自分の親に対しては「いろいろな言われるのは嫌だ。ウザい！」と口を揃えて言うのです。

いろいろな子どもたちと関わると「これくらいの子もってこうなんだ」というのが実感でき、知っている子どもを応援したくなります。親の気持ちにも余裕ができます。子どもたちも様々な大人と関わる事で成長につながると思います。そして我々地域の大人と学校の先生が関わる事で、地域は学校を理解できるし、先生は学校とは別の世界を知ることができると思っています。これは本やYouTubeでは絶対に味わえない感覚です。

今まで地域の子どもたちとあまり関わってこなかった方は、この機会に学校や地域の活動に参加してみませんか？そして「子どもたち」の本気に大人も本気で応えてみませんか？

コロナ禍で地域行事ができなくて、日常に戻った時に続けられるかな？と心配されている地域の方々にお願いです。地域行事は続けてください。子どもたちは地域行事と一緒に汗を流したいと言っています。大人も子どももお互いに楽しく、にしみたかの地域を盛り上げていきましょう。

地域人に学ぶ

二小の「まちづくりプランナーになろう」では、地域でまちづくりに携わる方々を学校にお招きして座談会を開き、まちづくりをする上で大切にしている思いや活動内容を聞かせてもらった子ども達。動画や紙面では得られない貴重なお話を直に感じたからこそ沸き出る「自分ならどんなまちづくりをしたいか？」について、小学6年生の視点を取り入れた提案をデジタル資料にまとめて発表会をしました。

井口小の「職業人に聞く」では、さまざまな職業人から仕事のやりがい、プライド、苦勞、そしてその乗り越え方など、貴重なお話を包み隠さず聞かせてもらった6年生。将来どんな仕事をするのだろうか？将来の職業について決まっている子ども、決められない子ども、まだ想像もできないという子ども、職業人に聞いた話を自分の中で噛み締めて、素晴らしい感想のお手紙を、講師の方々へお送りしました。

二中の「SDGs」では、地域のさまざまな事業所が既に取り組んでいるSDGsについて調べた後に、生徒がグループごとに事業所を訪問して、事前学習で持った疑問を質問したり、SDGsに取り組むための工夫や努力など、見て・聞いて・学びを深めさせてもらった2年生。後日、事業所の方々に学校をお招きして、各事業所の取り組みや、生徒が提案するSDGsについて発表会をしました。

この他にも、二小の「職業人の話を聞く」や二中の「職業人に学ぶ」など、キャリア教育として今年度もさまざまな学習が行われました。どんな大人になりたいか？自分にはどんな力があるのかな？その力を社会でどんな風に活かそうか？その先にある進路や職業選択について、小学校から中学校にかけて継続的にじっくり学べることも小中一貫校の魅力のひとつです。



今回は各校のキャリア教育の狙いと共に、参加された講師の方の感想を掲載します。



ウクレレスクール代表

高嶋 尚子さん
事前学習して、色んな職業の話を聞いて、事後学習するという一連の流れ、とても素晴らしいと思います。その中で、将来への新しい夢が生まれるかもしれませんね。生徒さんの眼差しやメモを取る姿に「今後の人生の何かヒントになってくれたら嬉しいな」と思いました。

フリーランス看護師・スウェディッシュセラピスト
福田 美保子さん
白衣を着て楽しんでもらえてよかったです。とても真剣に聴いて下さり私も心からお伝えたいと思いました。ご自分をまず大切にしながら大人になって社会生活をストレス少なくすごされます様にお祈りしています。

三鷹市西多世代交流センター長
丸山 尚さん
少人数で子どもたちと話し合う場を作ったこと、いただいたことが大変良かったと思います。こちらの話も伝わりやすいのと、子どもたちの反応や意見も受け取りやすいので「ただ話をするだけ、聴くだけ」ではない手応えがありました。貴重な機会を作っていたいただきありがとうございます。

第二小学校「まちづくりプランナーになろう」

第二小学校 飯田 洋子先生
二小6年総合「まちづくりプランナーになろう」の学習は、目標を「将来、街づくりに自らかかわってほしい」とする気持ちを育てる」とし、そのために「地域の方から学ぶ、友達と学ぶ」ということを重視しました。「地域の方から学ぶ」ということを実現するために、日頃から街づくりにかかわっている地域の方を招き、街への思いを語っていただく場を設けました。

ピナットボランティア・大学院生
小野 真実さん
今日は貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。子どもたちに、ピナットのことを知ってもらえたとても良い機会になったと思いますし、私自身も地域の方々の活動内容を知ることができて勉強になりました。

建築家、兼業都市農家、大学講師、CS委員
亀井 寛之さん
CSのこと農業のことで自分が思っていることを伝え、割と納得して聞いてもらえました。

子どもたちに「まちを自分たちが変えられるか？」と聞いたら誰も出来るとは思っていないようだったので、思った事を伝えられればCSもPTAも地域の人も一緒に実現出来るかもしれないので、気軽に相談してもらいたいと伝えました。

西部地区住民協議会、井口囃子保存会、(株)まちづくり三鷹
山下 慶子さん
自分の住む地域に興味を持って好きになっってもらえたらと思います。

子どもたちと学校と一緒に、にしみたかを素敵なまちにしていきたいです。

第二中学校 事業所訪問「SDGsインタビュー」



第二中学校 吉野 裕太先生
今年度の第2学年では、SDGsに関する学習として、市内の事業所を訪問し「SDGsインタビュー」を実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年実施している「職場体験」の実施ができませんでした。そのため、地域の事業所を訪問し、直に「職場」を見るという事は、学校や家庭以外の世界を知り、新しい価値観や考えに触れる機会となりました。

また、生徒にとって、親や教員以外の大人と交流する機会は限られています。教員は、教育者として生徒と接しますが、地域の方々の交流はそうした立場の違いを越え、同じ地域で生活する身近な大人のロールモデルとしての姿を生徒に見せてくれます。皆さんの交流を通じ、生徒は地域の一員であることを自覚し、より地域を身近に感じ理解を深めることができました。さらに、職業人としての生の声を聞き、働くことについて理解を深め、自分自身の価値観や職業観について考えることができました。

マクドナルド東八道路野崎店
大森 剛さん
短い時間でのコミュニケーションだったのですが、あまりお役に立てなかったかもしれませんが、私自身も自店舗のSDGsの取り組みについて再学習する機会になったので、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

三鷹市西部地域包括支援センター
服部 将志さん
非常に良い取り組みであると思います。当事業所としても、高齢者・介護・認知症・障害のことに関して啓発したいという狙いもあります。今後も連携して行けたらと考えています。

都市農家
吉野 崇弘さん
最初はSDGsと聞いて構えてしまいましたが、学生さんとの質疑応答を通して、農家として知らず知らずのうちに日々実践していることがいくつかの項目に該当している事に気付きました。今回の訪問に感謝致します。ありがとうございました。



井口小学校「職業人に聞く」



井口小学校 長田 容成先生
にしみたか学園では、小学校6年生で「職場訪問」を実施していました。「働く現場」を訪れ、働いている場面、働き手の思い等、自分の目や耳で直接感じ、「働くこと」の大切さ、今後の人生設計を考えさせるためです。おかげさまで、毎回大勢の方々のご協力のもと、大きな成果を上げてきました。コロナ禍となり、訪問が難しくなったため、昨年度からは教室にお呼びし、「職業人に聞く」という形となりましたが、訪問が難しい職場の方にもお越しいただけ、ありがたかったです。

保護者の皆様も「職業人」ですので、各家庭でもお話をして頂けると良いのですが、家族となると身近すぎて難しいのかもしれませんが、しかし少し範囲を広げると、地域にも色々な場面で働いている方々がいらっしゃいます。実際、楽しそうにお話をされていた姿から、「働くことが楽しくなった」という子どもの感想が聞かれ、うれしく思いました。子どもたち自身も「地域」の一部であり、将来それぞれの「地域」で活躍してくれたら更にうれしいです。